

タギゾウくんとトサの国の

人形劇団

にんぎょうげきだん



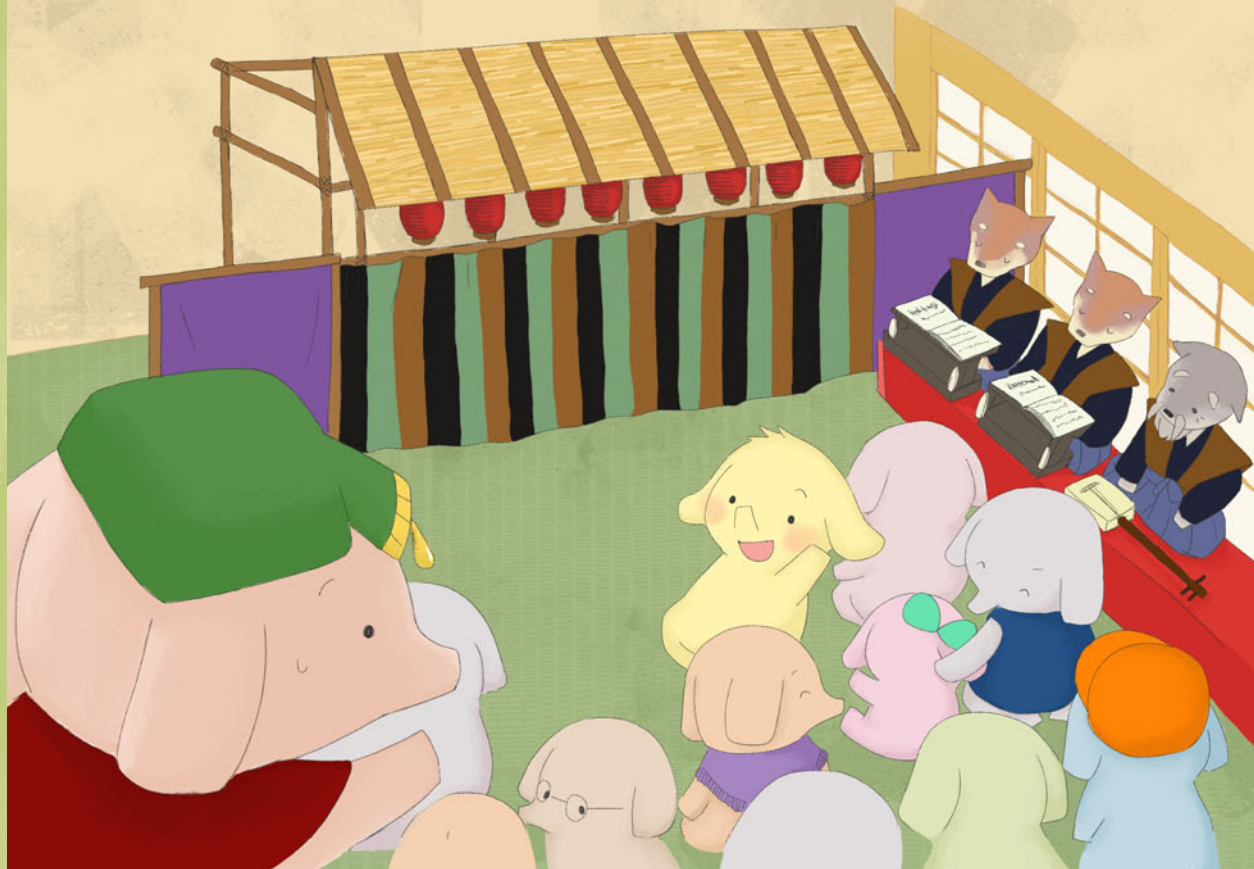
さく：養老町教育委員会 中島 和哉
う：山本 彩乃



タギゾウくんは、タギの^{くに}国の^{おうさま}王様です。



ある日、タギゾウくんが昼寝をしていると、友達ともだちのムロちゃんむろちゃんがタギゾウくんを起こしおきに来ました。
「タギゾウくん、大ニュースだよ！明日、ぼくの村に、トサの国から人形劇団にぎやうげきだんが来るんだって！
夜には、ぼくの家で人形劇にぎやうげきを上演するよ。見においでよ。」
「やった！それはすごい。一度、見てみたかったんだ。」タギゾウくんは、喜びました。



つぎ ひ よる
次の日の夜、タギゾウくんがムロちゃんの家^{いえ}に行くと、たくさんのゾウ^{あつ}たちが集まっています。
部屋^{へや}には人形劇^{にんぎょうげき}の舞台^{ぶたい}が用意^{ようい}されています。

「タギゾウくん、こっちこっち。」ムロちゃん^{まへ}が、前^{まへ}の方^{ほう}で手^てを振^ふっています。タギゾウくんがムロちゃん^{よこ}の横^{すわ}に座ると、「とざい とーざいー」大^{おお}きなかけ声^{こえ}とともに、人形劇^{にんぎょうげき}の幕^{まく}が開^あきました。



ぶたい
舞台には、かわいい女の子と、女の人の人形が立っています。

「あたしが小さいとき、いなくなっちゃったお母さんを知りませんか？」

おんな ひと
女の方は、すぐにこの子が自分の娘だと気づきました。しかし、今の私は盗賊の仲間…。本当のことを言
えないお母さんは、娘のために嘘をつくことにしました。「ごめんね、知らないわ。」



「おや、髪がぼさぼさね。直してあげるわ。」女の人は娘の髪をやさしくなでてやります。すると、「お母さんどこにいるのかなあ」と、女の子がつぶやきました。お母さんは涙をこらえ、娘を見送りました。「本当のことを言ってあげればいいのにね。」タギゾウくんが隣をみると、ムロちゃんは泣いてしまっています。舞台の人形たちは、喜んだり、悲しんだり、まるで生きているようでした。



つぎ ひ あさ
次の日の朝、タギゾウくんは、人形劇団を見送りに行きました。ところが、人形劇団のモヘイじいさんが、
なか お
お腹を押さえてうずくまっています。
「どうしたの？」 タギゾウくんが聞くと、ムロちゃんは「モヘイじいさんが、急にお腹が痛いって言い出し
きゅう なか いた い だ
たんだ。」と言いました。「それは、たいへんだ。」



にんぎょうげきだん な か ま やくそく しかた たの つぎ くに
人形劇団の仲間は、約束があったので、仕方なくモヘイじいさんをムロちゃんたちに頼んで、次の国
へ向かうことにしました。

ムロちゃんとタギゾウくんは、いっしょうけんめい かんびょう びょうき
一生懸命モヘイじいさんを看病しました。しかし、病気はいっこうに
よくなりません。



しんばい
 心配になったタギゾウくんは、女神様に会いに象鼻山へ登りました。話を聞いて、女神様はこう言
 いました。「残念ですが、モヘイの病気は、もう治らないでしょう。」
 これを聞いたタギゾウくんはとても悲しくなりました。そして迷いましたが、本当のことをムロちゃ
 んとモヘイじいさんに話しました。



すると、モヘイじいさんは言いました。「仲間^{ななかま}のところ^{もど}へ戻れないのは残念^{ざんねん}ですが、誰^{だれ}でもいつか死ぬ^しものです。最後^{さいご}に一つ^{ひと}だけ、お願い^{ねが}があります。私^{わたし}たちの人形劇^{にんぎょうげき}を、タギの国^{くに}に残^{のこ}してもらえないでしょうか。」

「うん、わかったよ。やり方^{かた}は教^{おし}えてね、モヘイじいさん。」タギゾウ^{かた}くんとムロちゃん^{こた}はそう答え^{こた}えました。



それから、タギゾウくんたちは一生懸命、人形劇の練習をしました。お話や三味線、人形の動かし方を覚え、
 舞台や衣装など、人形劇に必要なものを揃えました。

そして、準備が整ったある日、タギゾウくんたちは、モヘイじいさんやゾウたちの前で、人形劇を披露
 することにしました。



その日は、たくさんのゾウが^{あつ}集まり、人形劇は^{にんぎょうげき}大成功^{だいせいこう}しました。みんなが、タギゾウくんたちに^{はくしゅ}拍手^{おく}を送ります。
モヘイじいさんは、とてもうれしそうでした。
しかし、それから^ま間もなく、モヘイじいさんは^し死んでしまいました。



タギゾウくんが悲しくて、象鼻山で遠くを見ていると、となりにそっと女神様が座りました。そして、女神様はタギゾウくん、こう言いました。「モヘイはあなたたちに会えて、幸せだったと思いますよ。」タギゾウくんは、人形劇が大成したときのモヘイじいさんの顔を思い出しました。そして、この人形劇をムロちゃんたちと一緒に、いつまでもタギの国に残していこうと決めました。

保護者の皆様へ



岐阜県養老町の歴史文化資源：<http://tagizou.com/>

室原文楽の解説：<http://www.tagizou.com/murohara/>

解説 室原文楽



むろはら

この絵本は、養老町室原に伝わる文楽という伝統芸能を題材にしています。文楽というのは、語りと三味線にあわせて人形を操る芸能で、人形劇のようなイメージです。

室原文楽は、一般的な文楽より人形が小さいのが特徴で、祝い事などの余興として、座敷で上演されてきました。しかし、近年は、存続が危ぶまれています。

語り・三味線・人形が一体となった室原文楽には、人々を感動させる演目がたくさんあります。

地域のイベントに参加したり、要請があれば出向いて公演もしていますので、ぜひ、モヘイじいさんがタギの国に遺した文楽を見に、養老町へ来てください。

最近の上演履歴



- ・室原地区敬老会
- ・第16回岐阜県文楽・能大会よろう2011
- ・日吉小学校芸術鑑賞会
- ・日吉公民館まつり（よりあいフォーラム）他

アクセス



車

名神高速道路 大垣インターより約10分
室原自治会館の駐車場が利用できます。

バス

公共施設巡回バス 室原自治会館前 下車

MAP

詳しい地図は【[こちら](#)】(google map)





おしまい